

平成24年度  
第1回羽黒地域審議会  
会議録(概要)

期 日 : 平成24年5月28日(月)  
場 所 : 羽黒庁舎3階 集会室

平成24年度 第1回 羽黒地域審議会会議録（概要）

○日 時 平成24年5月28日（月） 13:30～

○場 所 羽黒庁舎3階 集会室

○出席委員（順不同）

林 茂生、金野 信勇、山田 勝実、小南 孝子、佐藤 繁明、佐藤 進、  
齋藤 一、高田 志郎、島津 慈道、天野 俊秀、庄司 祐子、梅津 久美

○欠席委員

太谷 眞一、山田 鉄哉、齋藤 良幸、山口 平、阿部 良一、富樫 篤、  
星野 博、本間 信一、

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 武田 功之、総務企画課長 榎本 光男、市民福祉課長 佐藤 き江、  
産業課長 岩城 公志、観光商工室長 五十嵐 満、  
東部建設事務室長 高橋 親孝、総務企画課主幹 佐藤 茂巳、  
総務企画課地域振興主査 佐藤 繁義、総務企画課専門員 大川 智之  
総務企画課主任 成沢 あかね、総務企画課主事 伊藤 寛実、  
総務企画課主事 工藤 徳将

本 所 企画部長 秋野 友樹、地域振興課地域振興専門員 三浦裕美、  
地域振興課主任 前田哲佳

○次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 平成24年度予算及び主な事業の概要について

(2) 地域審議会の提言について

(提言内容を踏まえた今後の進め方について)

(3) その他

4 閉 会

## 【会議の概要】

- 1 開 会 (13時30分) 総務企画課長
- 2 あいさつ 支所長・佐藤会長
- 3 報 告  
(1) 平成24年度予算及び主な事業の概要について

### (質疑応答)

<山田勝実委員>

道路公共工事のことでお伺いしたいのですが、東部建設事務室関連ですが、大口櫛引線防雪柵設置工事100mでこれは今年で終わるのでしょうか。

<東部建設事務室長 高橋室長>

100mについては今年で終わりますが、工事は引き続き来年度も行います。

<山田勝実委員>

わかりました。

<佐藤会長>

この辺の継続はいいのですが、何年度と目途立たないのですかね。

<東部建設事務室 高橋室長>

市単独事業につきましては、ある程度予測はできるのですが、先ほども言いましたように国からの交付金によります社会資本整備事業では、国からの内示額によりまして、施工延長が変わってくることもありますので、整備年度計画は立ててはいるのですが、現時点では何年に工事が完成出来るとはっきり申し上げられませんので、ご理解を願いたいと思います。

<小南孝子委員>

地域コミュニティ活性化の検討についてお聞きしたいと思います。前、広瀬公民館で行ったときに私も参加させて頂きました。どこかの人たちが来てこういうような問題統括したようですが、そのとき私ちょっとお話が出て、広瀬公民館での話ではないのですが、上野新田と東山と三軒屋の方たちも来ていて話をしたのですが、広瀬地区公民館のことを言うんです。私は四小地区なのですが、学校適正化になって今度四小が無くなると、うちのほうはどうするのかなという感じがするのです。例えばこれからの防災のことや、防災の拠点の評価のことなど見直したりしたいというのですが、うちのほう四小公民館が無くなったら三小の広瀬地区に行くのか、二小の泉地区に行くのか、そういう感じになったのです。それをちょっとお聞きしたいなと思うのです。学校そのものはどっちに行くか分か

らないのですが、でも三小に行くか、二小に行くかどっちかになると思うのですが、その地区に住んでいる地域の住民というものは、今まで敬老会でもそうなのですが、広瀬と泉に分かれているのですよね。だからといって、学校の生徒と同じように三小に行く、二小に行くってたぶん無いと思うのですが、今までやっと何十年もかけて四小地区の公民館ができたのに、学校が無くなることによって、みんな分かれなければならないのか。それともできることであれば、四小は四小地区公民館はそのまま残してもらって、そこだけで何かに対応できるものがあるかというそういうふうなものをお聞きしたいなと思います。何かにつけても、広瀬地区・泉地区に分けられてしまって、四小地区の住民はどこにいても中途半端な感じがして。

<総務企画課 佐藤主幹>

今の意見についてでございますが、ご承知のように羽黒地区では、公民館が4つあるというので、四小地区の公民館というか四小地区の成り立ちというものについても、今年あったということで認識をしておりますが、今現在コミュニティについても、考え方というのを内部的に、外部の委員も交えまして検討を行っているというのが1つあります。その検討結果を踏まえた上で、現在の市としての考え方では、現在ある4つの公民館をその地域の拠点施設ということで位置付けまして、コミュニティ活動の中心ということで発展をさせたいという風に考えております。今会長さんが言われた学校適正配置という問題が1つコミュニティの形成として大きな問題としてあるわけで、現時点で四小地区がどうなるか申し上げる段階ではないのですが、今後先ほども申し上げましたように、公民館を地域の拠点施設にしていくといいますか、発展させていくという中で様々地元のご意見なり、あるいは全体としての考え方によって方向性が決まっていくという風に考えております。現時点ではこのくらいしかお答えできなくて申し訳ないです。よろしくお願ひします。

<小南孝子委員>

昨日敬老会で「上野新田はどっちさ来てるんだ」って前からずっと広瀬地区に来ていたのですが、四小地区なものだから、「上野新田は前からずっと広瀬地区に来てたのですか。」って聞かれました。私は元々広瀬地区の生まれで上野新田に嫁いだものですから、広瀬地区に行くものだと思ったのですが、そういった認識の方がいらしてるみたいで、「今野とか向山では泉の方の敬老会に参加しているのですか」と聞かれました。改めて言われると、4小はほんとに中途半端だなって思ったのです。50年近くの歴史があつてやつとそうやってきたのに、昨日思ったものでしたから質問してみました。

<斎藤副会長>

2つほどあります。産業課の関連で10番に森林環境教育推進事業とありますが、鶴岡市の森林文化都市宣言が挙げていることでございますが、教育を除いた森林環境推進事業とは我々の農家が意図する形で補助することはあるのでしょうか。

それから観光商工室の関連ですが、やまぶし温泉ゆぼかの管理運営が出ていますが、先日出羽商工会の理事会の席でゆぼかの運営を商工会に引き受けてくれないだろうかという

打診があったとお話がありました。その辺の事情を話していただきたいと思います。

<産業課 岩城課長>

今総合計画というか、ルネサンス宣言の中での森林文化都市宣言の中で羽黒地域の林業に対する政策といたしましては、中心となる人を呼べるものをもってくる計画というような計画は現在ありません。先ほど紹介した絆の森事業の中で、地元企業とそれから森林エリアを共通しまして、森林の中で自然の勉強しようとか、先ほどご紹介申し上げた羽黒第二小学校のブナの植林授業によつての森林に対して興味を持つというような森林との関わりの事業を展開しているところです。

<斎藤副会長>

例えば地域で手向の何々町で植樹活動をやったときに、こういう事業をやるのですが補助を申請しても無理だと。

<産業課 岩城課長>

その地域に関しまして、植林をしたいという民有林と種類が国有林とかありますが、その事業の中でどういう形のエリアを計画的に森林作りしたいかということによって事業の選択肢があると思いますので、その団体の方の希望があったら市のほうにご相談受けていただいて適切な事業の選択をさせていただければと考えております。

<観光商工室 五十嵐室長>

やまぶし温泉ゆぼかに関してのご質問なのですが、鶴岡市が所管する日帰り温泉施設は「ゆぼか」の他各地域にあるわけですが、これら日帰り温泉施設に関しましては、行財政改革の中で機能・運営手法の見直しの方向性が示されております。それで羽黒のゆぼかだけではなくて藤島のぼっぽ、櫛引のゆ〜Town、直営ですけれども朝日のぼんぼ、以上4つの日帰り温泉の施設をこれからどうしていくかは、大きな課題として挙げられています。それでゆぼか単独での話ではなくて、市全体の日帰り温泉施設をどうしていくかという話で、実際にそれぞれの施設の経営内容等に関して、出羽商工会で調査に入るといったことは伺っております。

<斎藤副会長>

今室長がおっしゃったように打診があったのは、やまぶし温泉ゆぼかだけではないのです。それこそ今挙げてもらった4つの温泉と鶴岡の市民ゴルフ場も入ってまして、5つの施設に関してどうだろうかと打診があったという風に理事会から聞いております。市民ゴルフ場に関しては決まったみたいですね。民間に委託されるとか。少なくとも温泉のやつがどうなっているのか気になって質問してみました。

<佐藤会長>

その他どなたかおりますか。

<天野俊秀委員>

先ほど小南委員から四小の統廃合の話から四小の公民館の話が出ていましたが、学校の方はだんだん少子化といいましようか、人数が減って大変なところまで来ているというこ

とは重々承知でございますが、防災という観点からしますと第四小学校があ地域の第2次指定避難所になっている。要するに小学校を自粛するといひましようか、統廃合をする、続いて公民館も統廃合をするという動きになるとですね、実際あ地区から二小、三小まで避難をするというのは非常に現実的ではないような気がするのですね。そこで何らかの形で検討中・話合中ということではあります、防災的な観点から小学校施設等を何らかの形で維持管理していけないものかということも是非検討いただければ。順番に玉突き状態で小学校が無くなっていくことについては不安を感じています。よろしくお願ひします。

<総務企画課 佐藤主幹>

今の件ですが、今の段階で四小がどうなるかというのは決まていないのですが、仮に四小がどちらかの小学校に統合になって、四小の校舎を使わないということになった場合、確か四小の建物が建ったのは昭和40年ぐらいたと記憶しているのですが、耐震的にも若干問題があるというようなことも想定されますので、今のお話も重々私もその通りだと思ひますが小学校の建物の活用といひますか、今あった建物の活用については今後の課題だと思ております。それと前段でお話がありました公民館の事ですが、説明不足で申し訳なかったのですが、現在ある4つの公民館、手向・泉・広瀬・四小の4つの公民館につきましてはあ地域の拠点施設化を図るといひことで、イメージとしましては鶴岡ですとコミュニティセンターが各小学校区にあるのですが、そういった地域活動の拠点になるような施設というようなものに衣替えといひますか、機能を変えていくというようなことを考ておりまして、四小地区の公民館そのものは名称は無くなりますが機能は残るといひうなことで考ております。

<佐藤会長>

ありがとうございます。次の方どうぞ。

<島津慈道委員>

建設関係にお尋ねしたいのですが、またお願ひしたいのですが、手向地区内排水路整備工事というの、これは水の冠水の件に対する問題だと思ひますが、これは新町のところの部分を目指すのでしょうか。その点ともう一つは、一般手向地区内を流れる排水路があるわけですが、冬ぶん今年みたいに雪が多かった場合には除雪をするたびに水路に雪を放り投げる。結局道路に排雪されたものが家の周りにあれたと、そのままにしますと道路に盛っていかれる訳です。今年度は生徒が落ちるといひ事故がありました。というの蓋が随分古くなりまして、大変重いもので2枚蓋になっているのですね。桜小路は後でから直しまして小さくなったんですが、蓋の不自由になっているものが随分ありまして、それをどうにか除雪しながら、補助をしながら有効に使えるようにもつともつていけないものかとその点をお願ひできないかと思ひます。

<東部建設事務室 高橋室長>

手向地区内の排水路整備につきましては冠水対策で芳賀さんの屋敷の中に官地の排水路がありまして、その排水路が呑めないということですので、下流が呑めないのかその辺を

調査しております。集落名は後ほど回答させていただきます。

<島津慈道委員>

池ノ仲ですね。

<東部建設事務室 高橋室長>

そこでございます。

<島津慈道委員>

新町のほうは無いわけですか。新町の方で冠水あったわけですが、新町の方は無いわけですか。

<東部建設事務室 高橋室長>

その集落につきましても冠水したということでありましたら、どのような状況になっているのか、調べまして後ほど回答させていただきます。地元の方からも家屋が浸水するといったことがあったのでしょうか。

<島津慈道委員>

あったと思います。

<東部建設事務室 室長>

今お聞きますと2ヵ所冠水したということですが、1ヵ所しか予算がついていませんので、その辺の経緯を調べさせていただきますのでよろしくお願いします。

<島津慈道委員>

蓋を開けたりするのが大変重いのですよ。随分痛んでいる蓋が数多くあるのです。あれは雪を捨てるためにわざわざ作った側溝なんですよね。それを有効に使うためにはどうしてもあれを直して、3枚や4枚に分けたりして蓋を軽くしていただいて、有効に使えるようにしたらまだまだ使えるはずなのですがその辺のことで今後の考え方がどうでしょうかということです。

<東部建設事務室 高橋室長>

手向地区の区長さんから側溝の受枠と網をボルトで締めているが、何十年もなるものですから、ボルトが緩んだり外れたりしている箇所もあり、車も出入りするものですから、対応願いたいということでお聞きしております、現在そこにつきましてグレーチングとコンクリート蓋で対応するようにしております。

<島津慈道委員>

対応して頂くのはわかりますが、金属で作られているものが大変重いものなんですよ。開けっ放しにして今年度生徒が落ちたようです。通行・通学で。そういう事故があっても閉めておいてくださいとあっても、開けるのも大変重いものですからお年寄りには無理なんです。だいぶ痛んでおりますのでそれを小さな3つ4つのものに分けて、軽くして持ち上げられるようにして物事を有効に使うまたは補助的なものとして使うというような形でもってくることでできないものなのでしょうかということです。

<東部建設事務室 高橋室長>

蓋が重く開け閉めが大変だということですが、1枚のグレーチングを2分割にして添えでも重いので3分割にしてほしいと要望があるとお聞きしています。それにつきましてはもう一度調査をさせて頂きたいと思います。よろしく申し上げます。

<島津慈道委員>

是非お願いしたいと思いますと申し上げますのは先ほども言いましたように、除雪をした後にはそれをやらないと全部近くの道路に雪を盛っていかれるんです。すると何のために除雪するか分からなくて、家のまわりにも全部道路に溜められるとまた排雪の問題も出てきますし、特に手向地区は雪の多い場所なものですから、できる限り各自で処分できるようにそういった形で、それに対するものをしていただけたら、結構消えるんですよそのために有効に使って頂けたらと思っております。ぜひ考えてみてください。よろしく申し上げます。

<東部建設事務室 高橋室長>

融雪溝としての機能を損なわないように調査させていただきますのでよろしく申し上げます。

<佐藤会長>

ありがとうございました。雪の降る前までひとつよろしく申し上げます。どなたか他にありますか。

<高田志郎委員>

3ページの6番ですが、中山間地の交付金というのはわかりますが耕作放棄地の発生を防止し、保全を図るための支援をしていきますという内容ですが、例えば交付金などはどういう風にしたらいいのか教えてもらえればありがたいのですが。

<産業課 岩城課長>

羽黒地区は平野と山場の中間の斜面の非常に農業がし難い場所、中山間地域という形でございます。平均斜度と田のブロックが1ヘクタール以上の広大なある程度を超えている中山間地域という基準を持っております。その働きにくい場所に関してどうしても農業を放棄して環境をそのまましておく、個人の力では未耕作地になるおそれがある訳です。12段階に分けて農道とかあぜとか環境を整えてもらって、農業を維持していくような形に対して支援をしてまいりますというような事業でございます。そういうような中山間の作業がしづらい地域・部分をブロックによって各団体で各エリアの環境保全を図ってもらうというような内容で事業を進めております。

<高田志郎委員>

ありがとうございました。

<佐藤会長>

私から一言お願いなのですが、3ページの12番の給食センター地産地消ですね。これは4月から一括になったわけですが、給食センターへの地場野菜の納入についてですが、これは羽黒地域産の農産物を使っていたらいいという希望もありますので、その辺を有



効にどの辺まで使えるかわかりませんが、そういった面を積極的に今まで羽黒地区で作っていたわけですから、それで羽黒地区の農作物も積極的に取り入れていくようによろしくをお願いします。

## <休 憩>

### (2) 地域審議会の提言について (提言内容を踏まえた今後の進め方について)

<佐藤会長>

それでは時間になりましたので次に進みたいと思います。2番につきましては、地域審議会の提言について進めていきたいと思います。先ほどお話がありました、去年の12月15日市長に提言したのですが、その前に平成21年度から8回も検討してきたという経過があります。観光地羽黒町更なるステップアップを目指してという形で5項目あるのですが、この辺の内容を提言しまして、3月議会にかけていただいて、それを今後どのように進めていったらよいか、また提言をして出せばなし、あるいは結果のフォローアップを目指して、その後いつの間にか消えてしまったとかどうなったかとか、分からずではやっぱり2年間の審議した結果が検討した成果の元で、次にステップアップをしていくといった形でここまでかかったのができたのにここまでできなかったとか、ここまでこうだから継続進行しているんだとか、そういった内容をやっていかないといけないと思いますので、その辺も含めて説明をして頂きたいと思いますので一つよろしくをお願いします。

### (資料に基づき一括で説明)

<佐藤会長>

提言した中でいろいろあるわけですが、僕らとしては期待感があるわけですね。50年いっぱいやって歴史的風致維持向上計画という形で、やっているわけだと思うのですが、やっぱり何かしつこく迫っていかないと、平然的に出していくと全体的に何が何だなやという形になって、やっぱり提言を出した以上はしつこく迫っていくようなことをやらないと見えてこないのだと思います。こういったものは何かが見えてきて変わったなと感じ、こういった形で手を打ってくれたな、よかったなと感じるわけですが、今課長さんからあった話だと「報告します」といった形だと寂しいので、庁舎を中心にして推進してこうと。先ほど話あった研修を開くといった話がありましたが、誰が集めて誰が主催してどういう風にやるんだという風なところを力強くやっていきたいと思いますが、これに関してどなたか意見ありますでしょうか。

## (質疑応答)

<金野信勇委員>

提言したことは完全に動いているわけではないのですね。資料の19ページに地域振興・地域づくりの推進ということが書かれているのですが、今求められているのは羽黒各地域の取り組みということで、書いてあるものには門前町・松ヶ岡・映画村というのが書いてあります。それから下に地域審議会の開催ということで今日しました。その下に地域活性化に関する方策の近況を進めますと書いてありますが、こういう風に進めますよと書いてあるだけで予算はついているのでしょうか。

<総務企画課 榎本課長>

ここに記載されている手向とか松ヶ岡とか映画村に対する支援ですが、それは計画作りも進んでおりますし、今年度中に計画を承認頂きたいと計画を進めておりますし、この辺の予算化もなっております。

<金野信勇委員>

せっかく提言したので、こういう形で進めているんだと1つでも2つでも良いので、こういう風に提言をしました。こういう風に結果を残しました。と、そういう形で報告して頂けるとありがたいです。

<佐藤会長>

今課長から予算化されましたと、僕はそういった話を聞きたいのです。そうすれば「そうか」と思うのですが、「推進します」といった形ですと何だなやという形になってしまうのですよ。門前町の件は何年からどれくらい進んだのですか。

<総務企画課 榎本課長>

20年に歴まち法が改正になって、それに基づいた計画作りが進められますので、2～3年は経過しております。事業も進んでおります。

<佐藤会長>

僕らがイメージするのは秋田の角館であればいいですね。武士の紋などがあってああやってなるのかと期待していたんですが、ああいう風になれば素晴らしいなと思っておりません。

<総務企画課 榎本課長>

せっかくの宿坊街でいろいろ歴史的な建造物も松ヶ岡もそうですが、あるわけなので、その辺の修景を整備や、電柱もできれば道路上から排除したいなど、そういったことで検討はしております。

<小南孝子委員>

手向の宿坊があるわけなので、来たら泊まってもらおうというのが一番でないかと思うのです。何年前かに審議員をやっていたときに、ゆばかにホテルを作るとか宿泊施設を作るとかといった話がありました。ただ農地だから宅地にならないからどうのこうのとなって

結局、合併する前の話ですがそういう話がありました。長期で泊まってもらうというのはホテルや民宿が駄目だというのであれば、せっかくある宿坊さんを使って頂くのが一番ではないかなと私は思うのです。せっかく街並みで綺麗になっているのにただただ見ただけでは、朝起きてそこら辺を散歩するとか夕方散歩するといったことに意味があるのではないかと思うのです。宿坊って夏だけの講中さんだけで、夏以外は泊まることができない、泊められないというところが多いのです。そこで協力して1年中泊められるようにしてみてもどうかと思うのです。そういうのが駄目であれば、羽黒は民宿が少ないので休暇村に泊まるしか無いのです。それこそ萬国屋に行く、温海に行く、湯の浜に行くとなってしまいます。ゆぼかの辺りに建物ができないものかと思います。そんなに大きなホテルでなくていいので、個人向けの宿泊施設の感じで、泊まってそこを起点として羽黒山や映画村に行っていていただいて2、3日泊まってもらうというのは前から思っていました。それは希望なので実現するとは思っていませんが、そういったことをひとつやってみてもいいかと思うのです。できるものであれば門前町を綺麗にするのだから、宿坊に協力してもらって、そこで泊まってもらって見て頂くというのが一番でないかと思います。希望ですがどうですかね。

<佐藤会長>

そこのところ梅津委員どうですか。

<梅津久美委員>

まず綺麗になってみてから考えたいと思います。確かに歩いていらっしゃる方もおりますし、飛込み客だと旅館さんも2つありますので、そちらの方にいらっしゃるようです。いきなりお客さんが来て「はい、泊めます」という状況にはならないものです。夏ぶんどすと色々準備が整っているのです、少しは出来るのですが。

<庄司祐子委員>

自分自身山形県グリーンツーリズム推進協議会で会長を務めています。折角長い時間をお話したので実現したらうれしいのですが、ずっと思っていたのですが、私の地元ですと西部児童館の今後のこととか、みなさんの地区の公民館とかいろんなものが統廃合だったり、今の指定管理者制度だったり、民間の活力を活かしたようなかたちで鶴岡市も進んでいくのだろうなと思いつつ聞いていたのです。身近なところで、羽黒の手向を越えると立谷沢に北月山荘があり、そこでは農家のお母さんたちが料理を出して宿泊施設となっている、グリーンツーリズムの側から見るとすごくいい時代が来たと感じている。なぜかという、たまたま羽黒の場合、農家民宿が1件もない。庄内の中では4、5件あるが羽黒には1件もない。手向には立派な宿坊があるし、国民休暇村もあるし、町としてもあまり農家民宿の期待が無かった・必要が無かったと思うのですが、今こうやってお話を伺ってみると例えば手向の中でも、建物はあっても少しメンテナンスをするとそういうものに貸していただけるような宿坊がないものかと思います。たぶん目の付け所を変えてみるということができるのではないかと思います。

それから鶴岡市の取り組みの中心というのが、1年に1回か2回、一般の者にも声をかけていただいて集まりがあったり、研修があったり、例えばそれと県と、あるいは一般の人で行う。グリーンツーリズムに国の補助金を受けている地域が庄内に5つもある。そう考えるとそれぞれが知恵とお金を出し合って、会場をいでは辺りにして物事の実現の仕方を大きな枠で捉え、今年何かしたいなと思ったとき予算の中で難しいことがあれば、突っかかりを行政のほうから解決していただいて、いくつかの団体から必要なお金を集めて、その方たちから実行委員をしていただいて、なるべく経費を少なくして大きな実りになるようになればいいなと思います。民間であれば単年度ではなく、来年・再来年も考えているわけで、行政だとどうしても単年度予算でやっているため、こういった会議でいいことを言ってもはっきりと行政が答弁できないのがそういったことなのかなと思います。知恵を集めて何かしらの形で説明してできるのではないかなと思います。当面グリーンツーリズムに関しては、こういったことができるのではないかなと思います。大まかな予算は農水の方にありましたよね。まだ予算にゆとりがあるところがあると思いますので、そういったところからグリーンツーリズムぐらいではできるのではないかなと思います。よろしくお願ひします。

<佐藤会長>

その辺のところ予算の関係上どうですかね。

<産業課 岩城課長>

今庄司委員からありましたグリーンツーリズム協議会ということで、農政課の方に載っておりまして、予算的にも事業ごとの予算ではなく、余裕ある大まかな予算が確かあったと思います。ただ、グリーンツーリズムは観光物産課の方でもやっておりまして、基本的には農業体験修学旅行ですか、そういう形でみなさんを対象にした誘客といった事業の対象では確か無かったと思いますので、そういったものを審議会の中で羽黒地区に要るか要らないかというのも含めまして話を伺ってみたいとは思ひます。

<佐藤会長>

そういったところからやっていただきたいですね。うまく利用して。思うのですがなかなか動けないということもありますので、そういったところからやっていただきたいと思ひますので庄司さん辺りから頑張って頂きたいなと思ひます。

先ほど月山荘という話がありましたが、先日月山荘に昼食を食べに行つたんですが、値段が安くて結構いいんですよ。働いている人みんなおばちゃんなんですよ。それが素朴な感じで尚且つ料理の種類が沢山あって一皿百円、二百円なので千円も出せば結構食べられ、山の幸もあっていいなと思つて帰つてきたんですが、ああいうものは雇用にもなるし、それこそ地産地消にもなるし、いいように作つてくれているんですよ。そういったいい方法もあるので、なかなか山形の人、特に庄内の人が多いので。周りにいいものいっぱいあるのですが、何で気がつかないのだろうか。こうでないかともっと声をあげてもいいのではないかなと思ひます。それはやっぱり庁舎の人がああだろうと、引っ張つてい

ていくのが一つの手かなと思うのです。

<天野俊秀委員>

合併する前の羽黒のスローガンと言いましょうか、町の紹介に「観光と農業の町」というのを挙げていたと思うのですが、勿論出羽三山を含めたということではあるのですが、今回のテーマと言いましょうか、観光地羽黒の更なるステップアップを目指してと提言をして先ほど予算のこともありました、予算が付く・付かないでこのステップアップをする・しないの話ではなくてステップアップをしていかなければならない。外から来る方々をどう迎えるか、もてなすかという話を今までしてきたわけですが、今度は受け止める側と言いましょうか、地域住民と観光とをどう繋いでいくか、その辺りをもっともっと深めていかなければならないのではないかと。所謂観光に関連する業者、関係者だけの話にせず、地域全体が盛り上がっている人を迎える気持ちになっている、そういうことが大事ではないかという気がするのです。グリーンツーリズムもそうですし、農家の人をいかにその気にさせるかというようなことありましょうし、前回欠席しましたがその時に副会長さんがパリにまで紹介した精進料理が地元でどれぐらい広がって理解されているか、観光は観光でやっていて自分たちは自分たちという風な感じではなくて、観光地羽黒とするのであれば地域をあげて先ほどの食材を提供したり、料理をするおばちゃん達ではないですが、暮らしの中に観光をどう繋げていくか。そういうのを作っていったり検討していったりしなければならぬのではないかと。この地域は本気だなというのが見える予算を付けなければならぬのではないかと。子どもたちの教育にしても自然とか観光地としてここは良いところなのだ、体験や学習という方向で次はステップアップの中で地元を見る、また地域を繋ぐというステップアップも図っていったらなという気がします。

<佐藤会長>

ありがとうございます。やっぱり地元が大事ですよ。

<佐藤繁明委員>

これからの観光ですね。羽黒の更なるステップアップということなのですが、せっかくこれだけ色んな検討されて一つ結論が出たのですが、これからやるものは色んなものを揃えてお客さんを待っていようというスタンスではなくて、呼んでみようというのと、さっきの天野委員の話もそうなのですが、地域の人も含めてなんです、まず呼んでみよう。もう少し踏み込んだソフト的な部分も必要なのではないかと思えます。例えば宿坊街を歩いて散歩をしてみても、独特の時間の流れがあって、なかなか趣があるところだなと地元に住んでいても思うのです。歩くのだったら歩くための動機付け、そういったソフトウェアなどを準備してみんなでやってみよう。例えば今パッと出てきたのですが、石段マラソンというのがあるわけですよ。1年に1回大鳥居から走るわけですよ。走る方も楽しい、応援する側も楽しい、面白いものなのですが、自分も歩いてみたいと思う人もいられるかもしれない。その人たちにウォークラリーとかゲーム性があるものでソフトウェアを提供して、走る人は走って羽黒を楽しめば良いし、歩く楽しみ方もあるのだよと。1回来

た人たちがまたもう1回来て、人を連れて羽黒に帰ってきてくれるようなことをやって、何回か続けていくことで、道具を準備して待っているよりもずっと効果があると思うのですね。もう少し踏み込んでソフト的な部分で何かやっていたら観光が進んでいくと思うのです。

<佐藤会長>

先ほどオリンピックの話がありましたね。東京が5つの国から1番に選ばれたということがありましたが、東京の得点はいいのですが何が一番低いかといいますと、住民の熱意の燃え方が他のところが70%以上ですが、東京が50%以下なのですね。やるところはいいのだが、みんなの盛り上げる力が日本は低いという評価なのですよ。羽黒にも当てはまるのですが、いっぱいあるのだがみんなが庄司委員や梅津委員など、現場の人たちが燃えているので、みんなで盛り上げて羽黒をアピールして発信してやっていく必要があるのではないかと感じがします。いいものがあるのだが地元が燃えないと人を呼ぼうといってもそれがなかなか…。みんなで考える必要があるのではないかと思います。羽黒の旅館も冬は駄目だというのではなくて、冬は冬なりの料理を出すといったこともみんなで考える必要があるのではないかと思います。

<金野信勇委員>

非常にいい意見がいっぱい出ております。その中でやはりこの地域が盛り上がらなきゃ駄目だということがわかります。8回も積み重ねられてきた提言ですが、本当に地域を盛り上げるという提言をした場合にどこでだれがイニシアティブをとるか。誰がそういう風なことを、ただ鶴岡市役所の方に提言しましたけど、それで終わってしまっている。これは求められていることではなくて、今言ったように食・住あるいは観光、いろんなものを合わせたものを発信する。その辺がはっきりして誰かがその辺のイニシアティブをとらないと、そういったことをしないといつまでも机上で10回会を開いた。あるいは8回みんなでこういうのをやってそれで終わってしまっている。一つか二つ取り上げられるかもしれないませんが、色んな住民にあったものと提言書をどこでマッチングさせるかを考えていかなければならない、それを見つけるのがこれからの仕事ではないかと思います。

<佐藤会長>

まさにその通りで、そこがいつもネックでないかと思うのです。結果をどういうふうにつめていくか、評価として出すかといったところが足りないと思うのです。出したのですがこの企画はどうなったのだと、それをどうするのだと、そういったところを考えていく必要があるし、その辺をつめていく必要があると思います。

<林茂生委員>

みなさんがわかっているような話で、具体的な話で例えば映画村オープンしましたが、アクセス道路の拡幅という前に看板を一つははっきりと建てていただきたい。あの辺を歩いていきますとしょっちゅう聞かれるのです。手向まで登って映画村はどちらに行けばいいですか。ですから、十文字の信号の所に小さい看板はありますが少し目立つ看板を市のほ

うでやっていただきたいと思います。それからもう一つ看板ですが、手向に入っていきますと JA の廃止されたスタンドありますが、そこに看板の跡がありますが看板はありません。近くですからそこでも聞かれるのです。こっち行くと村の中に入りますか、こっちに行くと羽黒山に行けますかと聞かれるのです。あそこはしっかりとさせていただくことによって「分からなくて困るなやの」ではなくて、きちっとした看板を表示していただきたいなと思っております。今後とも整備する前は必ず計画を立てて、予算も必要だとは思いますが、看板くらいはしっかりと建てていただきたい。

それからもう一つ、隨身門の前に、バイパスの前に、隨身門に入る場所の表示をしていただきたいと思います。「駐車場もありますし、ここから真っ直ぐ行くと隨身門から行って羽黒山 2446 段に登れますよ。無料の駐車場もそこにありますよ。」という表示を建てていただきたい。あそこに看板の表示はないです。

蕎麦まつりの開催が載っていますが、昔から手向の蕎麦は有名なのです。宿坊に来る人たちに手向の蕎麦は必ず昼か夕方には出ているはずなのです。後継者の問題もあったと思いますが、手向の蕎麦という昔からやっている方は、今はやめております。ただ石井商店で大いにやっておりますので、そのあたりを広げて羽黒の蕎麦の宣伝をしていただければ、隨身門に来るお客さんがお昼何処にするか、という感覚を持てると思うのです。石井商店だけの宣伝ではなくて、羽黒の蕎麦の宣伝をしていただければ地元のみなさんも大いその評判を利用できると思いますし、手向に来る蕎麦をおいしく作ってくれば、「手向の蕎麦うまかった」となると思います。まず看板の設置と食を一つよろしく願います。

<佐藤会長>

ステップアップよりもその前にやるところがいっぱいあるではないかと思えますね。見直し隊というのをつくって、何が必要かといったことを考えると結構ありそうですね。あれこれやる前にやるのがいっぱい転がっているような気がします、その辺のところ観光課どうですかね。

<高田志郎委員>

話が戻ると思いますが、宿坊に夏以外に宿泊という話がありました。夏ぶんは雑魚寝にして寝せます。冬ぶん寒くなると大部屋で暖房や食材も面倒くさい。宿坊の意識改革をしないと夏ぶんだけ、秋や冬にかけても泊めようというのは無理だと思います。それから林委員の方からありましたが、本当は手向地区のそばは私の幼少の時からありましたが、70歳になって何十年になるか何百年になるかわかりません。朝日・櫛引もこうやって「蕎麦」とやっていますが、羽黒の手向の蕎麦が先。もうちょっと PR・宣伝してほしいと思います。

<観光商工室 五十嵐室長>

林委員からありました、看板の件ですが、羽黒地域の看板の現況調査というものを昨年実施しました。今実際にどこにどういう看板があるか写真を撮って、優先順位をつけて実施していきたいと考えております。三ツ橋と狩谷の中間の鳥居のモニュメント、何が書い

であるか薄くなって分からないという提言をいただきましたので、今後やっていきたいと思っております。それから映画村オープンセットの看板につきましても、役割分担として庄内映画村でやるべきものなのか、あるいは行政がやるべきものなのか、その辺も当然検討する必要があります。映画村一ヶ所のものというよりも羽黒地域全体の案内誘導板ということであれば、当然映画村オープンセットに行く際には月山高原牧場にも寄っていただきたいとか、そういう観光施設を合わせた形での全体としての誘導案内ということも考えながら、設置していきたいと思っております。去年も2件ほど手向内のバイパスのところにも設置をさせていただきましたし、宿坊街の入り口に関しましても手向のスタンドに関しましても有効活用するような検討をさせていただきたいと考えているところです。宿坊の関係ですが先ほどお話ししました通り、宿坊の受け入れ態勢ということで調査したのが5年ほど前になります。あれから5年も経ちましたのでまた宿坊のほうでも受け入れ態勢が変わっているというところもあると思っておりますので、調査をしながらどこの宿坊で外国人OKか、通訳OKか昼の受入れも前もって予約していればOKかといった調査などもやっていきたい。それで情報発信をさせていただきたいと思っております。蕎麦に関しましては、元祖羽黒蕎麦をこれからどのような形で売り込んでいくか、観光協会とか出羽商工会とか連携をしながらPRを図っていきたいと考えております。

<佐藤会長>

大変いい意見を集約していただいて、というよりもやらなければいけないんですよ。今商工会の話がありました。山田委員何か。

<山田勝実委員>

2、3年前になりますが、商工会で「蕎麦マーク」を出しまして、羽黒の蕎麦とうどんですね。蕎麦とうどんを網羅したパンフレットを出しました。ただ、それがどこまで行き届いたか分かりませんので、もう一度再構築してみたいと思っておりますので企画していただくのはありがたいことです。

<佐藤会長>

看板も映画村であります。言い方が失礼ですがしょぼくて、全般的に行政が持つのではなく、折半でやるとか、出し合ってやるとかそういう方法があると思っております。行政が全部持つと40万も30万もかかると思いますが、映画村と一緒にタイアップして折半するとかそういう方法でもできるかもしれませんので、映画村の看板がいかにもあちこちあるのですが、あれは自分達でやっている手作りでもいいのですが、そうやって頑張っている人々をバックアップしようじゃないかと思うのですが。

<佐藤会長>

まだまだ意見あると思っておりますが、宿坊さんの意識を変えようじゃないかという意見もありました。全体であそこが良い、あそこが悪いではなくて全体をどうにかしていこうじゃないかという前向きな形で取り組んでいって、各々仕事分担をすればより美しいかなと思っておりますのでせっかく今日こうやって集まって知恵を出し合っていますので頑張っていきたい



いと思います。また行政の方も後から報告するのでなくて、きちんとうなりましたと報告して、ここをもっと応援してくれというところがあって、あれこれできるわけだから地域の活性化をするためによろしく願います。長い間を議論してきましたが本日もいい意見がいっぱい出ましたので、そういったものを参考にさせていただいてここに活かしていきたいと思います。どうもありがとうございました。

### (3) その他

(副会長よりシンポジウムの説明)

## 4 閉 会